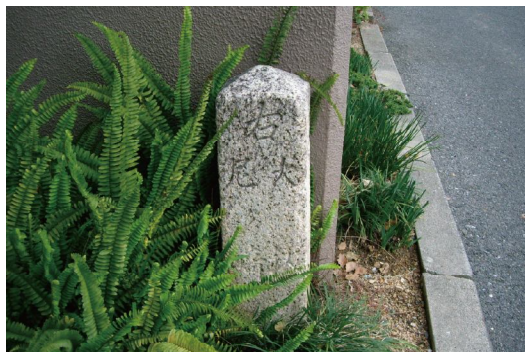


⑥ 東天神社



いざなぎのみこと
いざなみのみこと
昆陽村の東の氏神で、祭神は伊弉諾尊と伊弉冉尊です。天平年間に僧・行基が昆陽池などを開拓した時、その事業達成を祈願した由緒ある神社です。

⑥の1 有馬道の道標



東天神社、鳥居前の堀のそばの道標西面は「右 大坂・尼ヶ崎」南面に「左 中山・三田・小濱・有馬」とあります。これも、もとはここから有馬道を南へ行き、伊丹道との三叉路付近にありました。

⑥の2 庚申さんと青面金剛



東天神社の社殿裏側には右に庚申さん、左に青面金剛が祀られています。

⑦ 西宿寺



稲野小学校沿革誌によれば、明治 8 年の設立時、昆陽村寺院西宿庵（現在の西宿寺）を校舎に充てとあり、昆陽村で明治 5 年まで存在した寺子屋は西宿寺にあったといわれています。

⑧ 長勢橋の碑



元治元年（1864 年）蛤御門の変で敗走した長州勢がここで踏み止まって戦ったといわれています。もとは、街道沿いにありましたが、児童公園が出来たときに植え込みの中に移動しました。

⑨ 法蔵寺跡



法蔵寺は、昔昆陽寺の塔頭の一つとして重要な位置を占めていたといわれています。寺伝によりますと、大永 2 年（1522 年）に現在地（伊丹市中央の法蔵寺）に移ったとあり、開山は鎮連社西誉菰弁和尚となっています。

⑩ 本陣跡



昆陽宿の本陣は佐藤家でしたが、幕末には川端家が勤めました。川端本陣（⑩の 1）には地図の作成で有名な伊能忠敬も、文化 5 年（1808 年）街道測量の途中、泊まりました。

⑪ 西の庚申さん

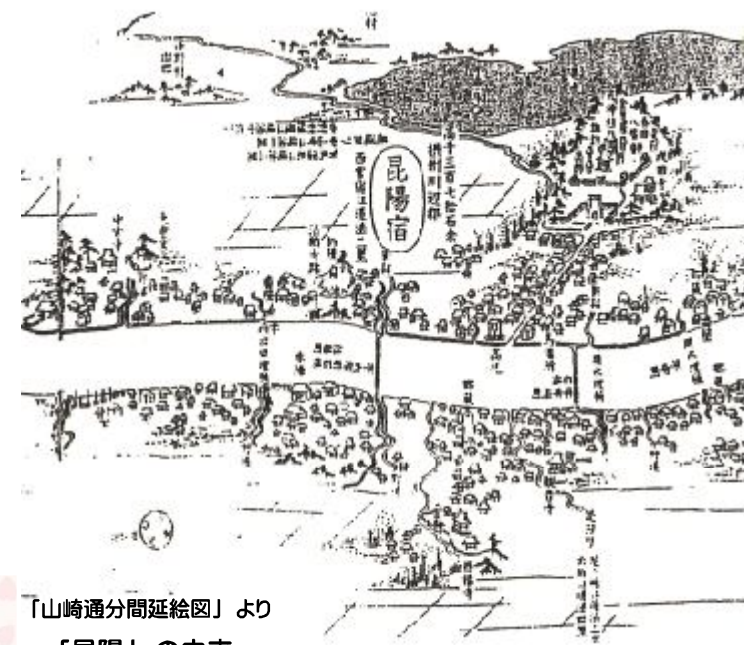


昆陽村には、東西の村はずれのほか、東天神社の社殿の裏（⑥の 2）にも庚申の碑があります。東の庚申さんは②の首切り地蔵の敷地内に祀られています。

⑫ 西天神社



東天神社と共に、昆陽村の西の氏神で、祭神も由来も東天神社とほぼ同じです。常夜燈は、参道や境内にいくつかありますが鳥居前常夜燈の中台四面には十二支が彫られています。



「山崎通分間延絵図」より
「昆陽」の由来

江戸期には、「慶長十年撰津国絵図」（1605 年）で小屋村、「正保二年撰津国絵図」（1645 年）で崑陽宿と表記され、ほかにも小や・崑陽の表記がよく見られます。一般には天平年間（729 年～ 749 年）に僧・行基が昆陽寺を建てたことから命名されたといわれていますが、『川辺郡誌』によれば、中臣氏がこの地を支配し、祖先の天兒屋根尊の名をとって児屋と名づけ、行基が寺を建てたときに「コヤの寺」すなわち児屋寺と呼ばれ、のちに佳字を選んで昆陽寺となったため、地名もそれにつれて昆陽に改められたとされています。

⑬ 昆陽寺



僧・行基創立の畿内四十九院の一つとして天平 3 年（731 年）に創建された「昆陽施院」の系譜をひく寺です。その後天正 7 年（1579 年）に織田信長の兵火で堂塔を焼失しましたが、江戸時代に建てなおされました。山門は昭和 44 年 3 月に兵庫県の有形文化財（建造物）に指定され、また、山門北側に安置されていた広目天及び多聞天の二天立像も平成 10 年 4 月に兵庫県の有形文化財（彫刻）に指定されました。